麻酔科
小児麻酔部門／産科麻酔部門

診療科の概要

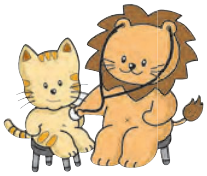
様々な疾患の小児・産科患者を対象に、安全で快適に手術や検査が受けられるよう、麻酔・全身管理を行っています。小児ではほとんどの場合、手術を全身麻酔下に行いますが、神経ブロックを併用するなど、術後疼痛の軽減に工夫をしています。心臓カテーテルやMRI検査の鎮静も麻酔科が担当しています。また24時間体制で妊産婦の帝王切開術や無痛分娩の麻酔に対応しています。

主な対象疾患

対象疾患は多岐にわたります。各科が周産期・小児の高度医療を担っていることに対応し、麻酔も専門性が要求される症例が多くなっています。特色のあるものとしては、母体・新生児搬送による新生児外科症例、先天性心疾患、口唇口蓋裂、分娩麻痺、先天性尿路・性器疾患、未熟児網膜症、気道異物、先天性奇形症候群を合併した症例などです。産科麻酔ではハイリスク胎児・妊産婦における帝王切開術や胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術などの周産期麻酔のほか、分娩部での無痛分娩の麻酔も担当しています。

診療実績（2023年）

2023年の麻酔科管理症例数は5,856件でした。小児麻酔（産科以外の成人症例も含む）件数は4,536件で、新生児症例は131件でした。産科麻酔症例は1,320件で、帝王切開術が462件、双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術が35件、無痛分娩の麻酔管理が741件でした。



主任部長
橘 一也

副部長
竹下 淳

診療主任
濱場 啓史

診療主任
阪上 愛

診療主任
征矢 尚美

診療主任
吉田 亞未